

## 桜島の火山活動解説資料（平成 26 年 1 月）

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

昭和火口では、爆発的噴火<sup>1)</sup>が 14 回発生するなど、活発な噴火活動が継続しました。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>2)</sup>及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>2)</sup>（火山れき<sup>3)</sup>）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

平成 24 年 3 月 21 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）の切替を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 1 月の活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2、図 3-①～③、表 1）

昭和火口では、活発な噴火活動が継続しました。噴火<sup>4)</sup>の回数は 15 回（2013 年 12 月：40 回）で、そのうち爆発的噴火の回数は 14 回（2013 年 12 月：22 回）と前月と比べ減少しました。大きな噴石が 4 合目（昭和火口より 800～1,300m）まで達する爆発的噴火は、7 回発生しました。22 日 10 時 16 分の爆発的噴火では、ごく小規模な火砕流が発生し、昭和火口の南東側へ約 500m 流下しました。昭和火口で火砕流が発生したのは 2013 年 10 月 20 日以来です。鹿児島市消防局中央消防署桜島西分遣隊によると、この噴火に伴い、桜島島内の鹿児島市有村町付近（昭和火口から南側約 3 km）で、最大約 1 cm の小さな噴石（火山れき）が確認されました。また、22 日 14 時 37 分の爆発的噴火では、鹿児島市消防局中央消防署桜島東分遣隊によると、鹿児島市有村町の有村溶岩展望所付近で、最大約 3 cm の小さな噴石（火山れき）が確認されました。

南岳山頂火口では、19 日にごく小規模な噴火が発生しました。

#### ・地震や微動の発生状況（図 4、図 5、表 2）

火山性地震の月回数は 296 回（2013 年 12 月：699 回）と少ない状態で経過しました。震源は、南岳直下の海拔 0 km 付近でした。

噴火に伴う火山性微動が発生しており、月回数は 193 回（2013 年 12 月：411 回）でした。継続時間の月合計は 51 時間 40 分で、前月（92 時間 18 分）に比べ減少しました。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 2 月分）は平成 26 年 3 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局大隅河川国道事務所、鹿児島県、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しました。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

・火山ガスの状況（図 3-⑤）

6 日、9 日及び 17 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 800～1,900 トン（2013 年 12 月：1,700～1,800 トン）とやや多い状態でした。

・地殻変動の状況（図 6、図 9、図 10）

有村観測坑道の水管傾斜計（大隅河川国道事務所設置）では、2013 年 2 月頃から山体が隆起する傾向が認められていましたが、7 月頃から停滞しています。

GPS 連続観測では桜島島内の基線で、2013 年 2 月頃からわずかな伸びの傾向が見られましたが、7 月頃から停滞またはわずかな縮みの傾向が見られます。国土地理院の地殻変動観測結果によると、鹿児島（錦江）湾を挟む一部の基線では、長期的な伸びの傾向が続いていましたが、2013 年 6 月頃から停滞気味です。

・降灰の状況（図 3-④、図 7、図 8、表 3）

鹿児島地方気象台での観測<sup>5)</sup>では、月合計 15g/m<sup>2</sup>（降灰日数 7 日）の降灰を観測しました。

鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した、火山灰の 2013 年 12 月の総噴出量は約 30 万トンで、11 月（約 50 万トン）より減少しました。2013 年 1 月から 12 月までの総噴出量は約 650 万トンで、前年（2012 年：年合計約 660 万トン）と同程度でした。

- 1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または気象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 3) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 4) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが 1,000 m 以上）の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火としています。
- 5) 鹿児島地方気象台（南岳の西南西、約 11km）における前日 09 時～当日 09 時に降った 1 m<sup>2</sup>あたりの降灰量です。



図1 桜島 22日10時16分の昭和火口の爆発的噴火の状況  
 （左図：海潟カメラ、右図：早崎赤外カメラ、いずれも大隅河川国道事務所設置）  
 ごく小規模な火砕流が発生し、昭和火口の南東側へ約500m流下しました（図中赤円内）。

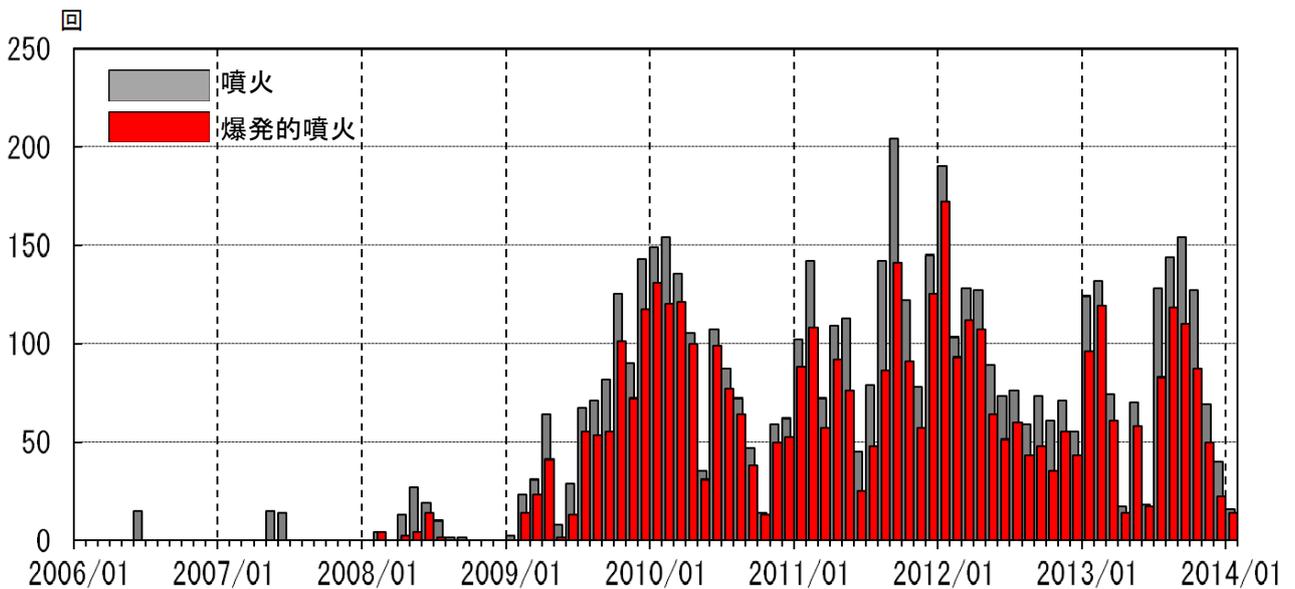


図2 桜島 昭和火口月別噴火回数（灰色）と昭和火口月別爆発回数（赤色）  
 （2006年1月～2014年1月）

< 1月の状況 >

昭和火口では、活発な噴火活動が継続しました。噴火の回数は15回（2013年12月：40回）で、そのうち爆発的噴火の回数は14回（2013年12月：22回）と前月と比べ減少しました。

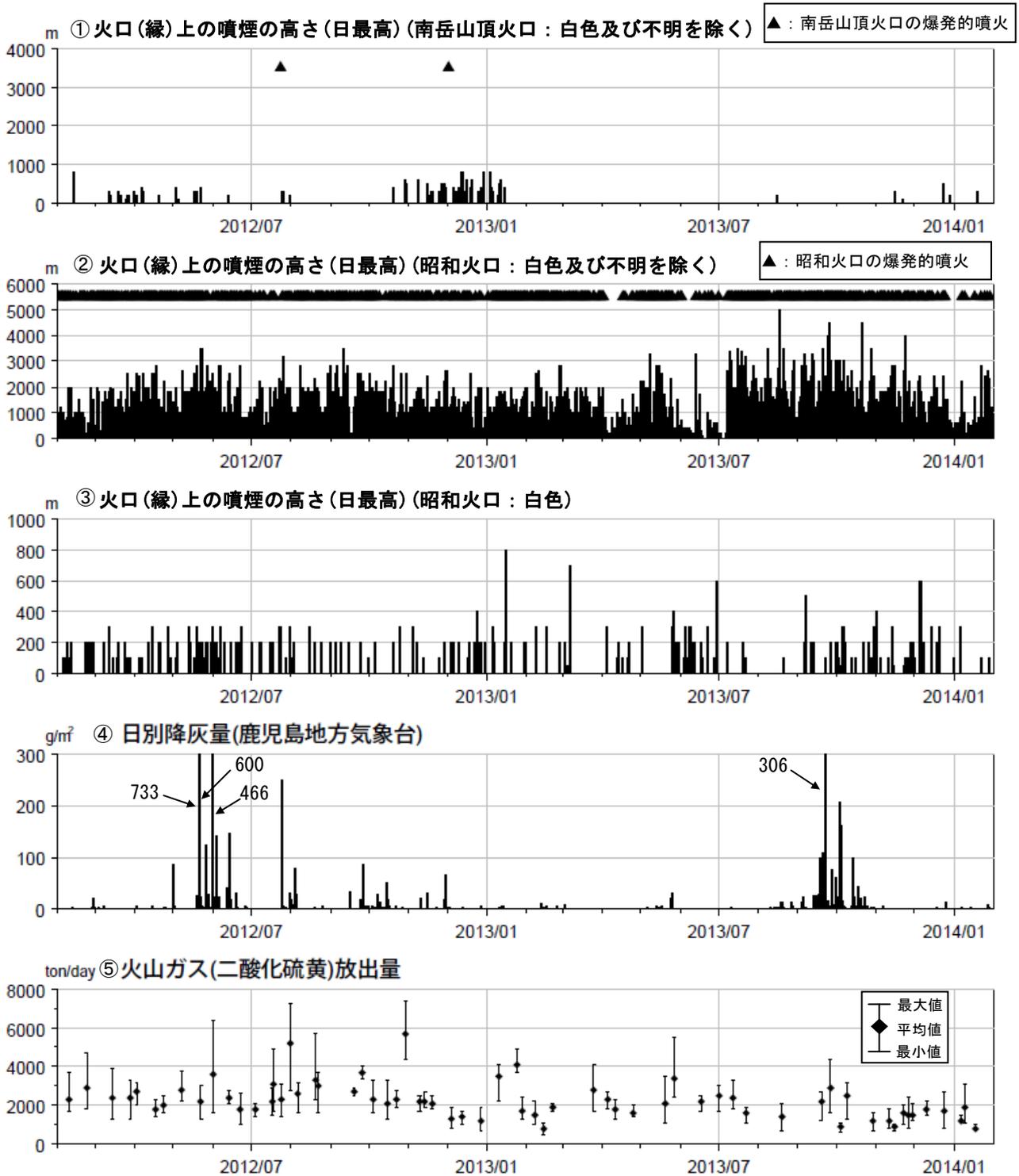


図3 桜島 最近2年間の噴煙、降灰、火山ガス（2012年2月～2014年1月）

< 1月の状況 >

- ・昭和火口では、活発な噴火活動が継続しました。
- ・南岳山頂火口では、19日にごく小規模な噴火が発生しました。
- ・鹿児島地方気象台での観測では、月合計  $15\text{g/m}^2$ （降灰日数7日）の降灰を観測しました。
- ・二酸化硫黄の放出量は1日あたり  $800\sim 1,900$  トン（2013年12月： $1,700\sim 1,800$  トン）とやや多い状態でした。

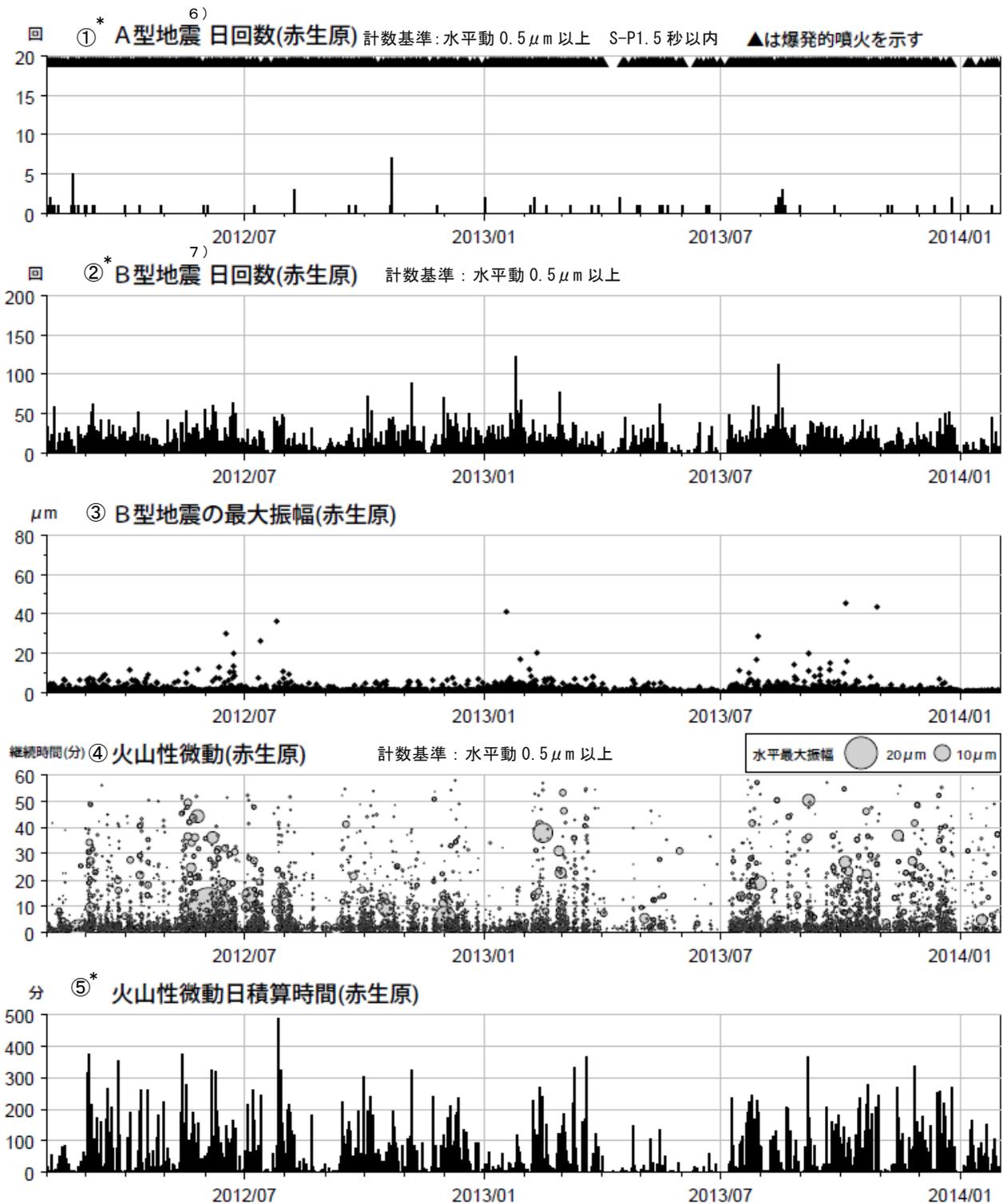


図4 桜島 最近2年間の火山性地震、火山性微動 (2012年2月～2014年1月)

< 1月の状況 >

- ・火山性地震の月回数は296回(2013年12月:699回)と少ない状態で経過しました。
- ・噴火に伴う火山性微動が発生しており、月回数は193回(2013年12月:411回)でした。継続時間の月合計は51時間40分で、前月(92時間18分)に比べ減少しました。

\*2012年7月19～26日、11月18～22日は赤生原障害のためあみだ川で計測(計測基準:水平動 $2.5\mu\text{m/s}$ )しました。

6) 火山性地震のうち、P波、S波の相が明瞭で比較的周期の短い地震で一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられ、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩石破壊によって発生していることが知られています。

7) 火山性地震のうち、相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震で、火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。

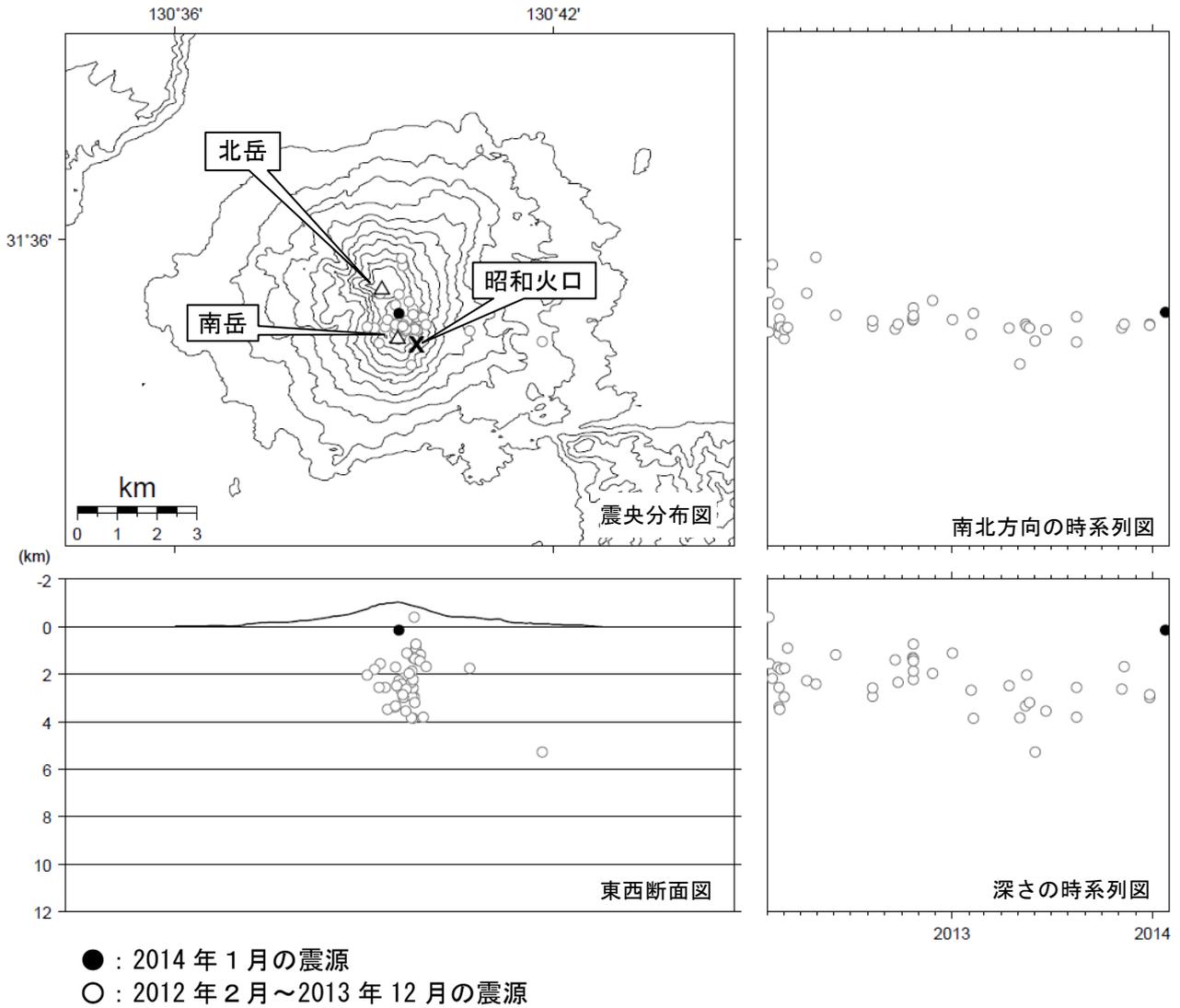


図 5 桜島 震源分布図（2012 年 2 月～2014 年 1 月）

<1 月の状況>

震源は、南岳直下の海拔 0 km 付近でした。

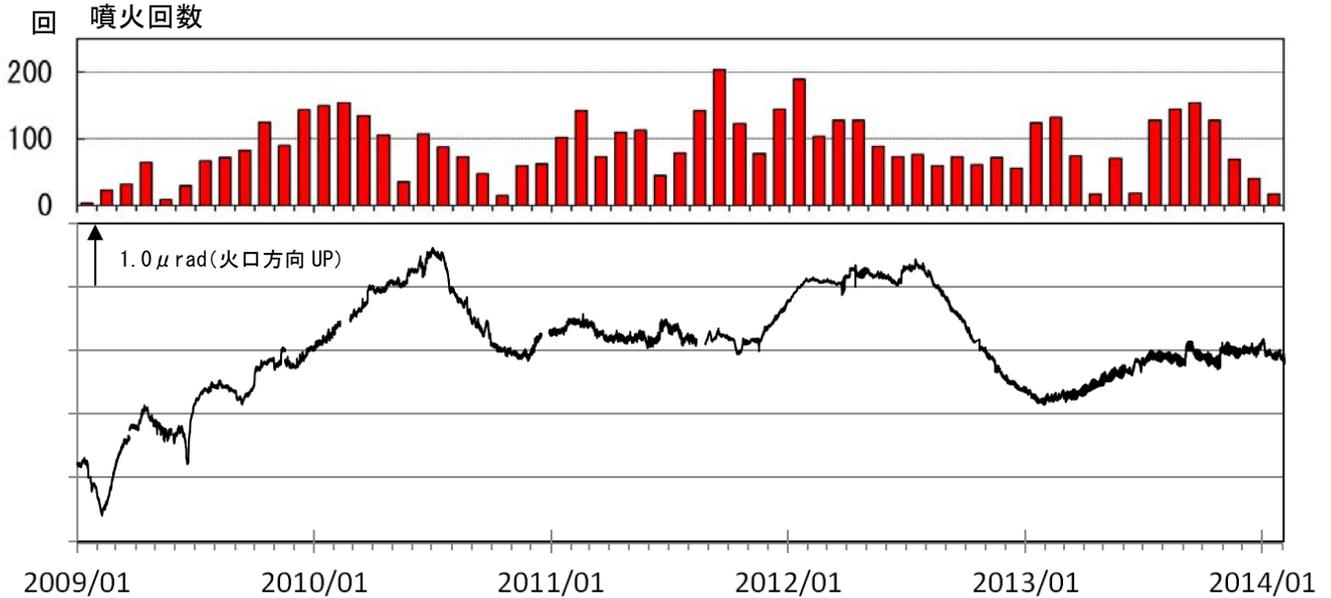


図 6 桜島 有村観測坑道の水管傾斜計（大隅河川国道事務所設置）の変化  
（2009 年 1 月～2014 年 1 月）

2013 年 2 月頃から山体が隆起する傾向が認められていましたが、7 月頃から停滞しています。  
有村観測坑道の傾斜変動は  $0.55 \times 10^{-8}$  rad/day のトレンド補正を行っています。

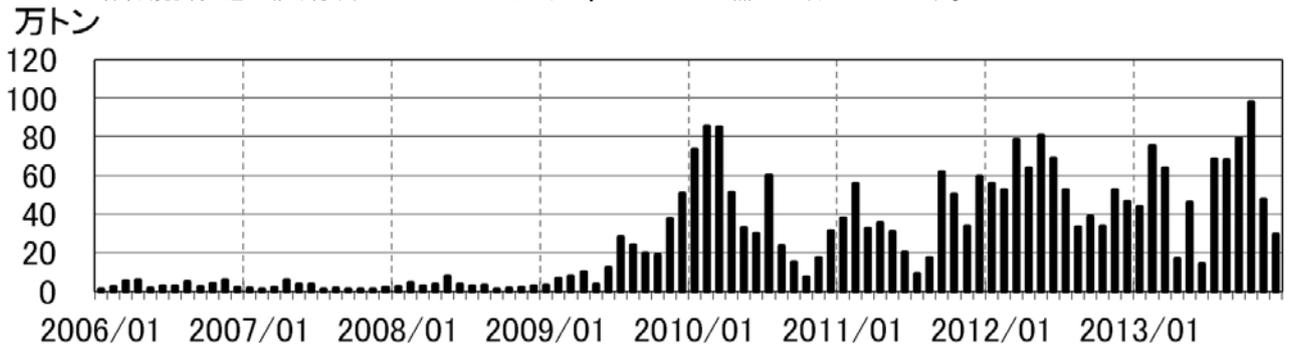


図 7 桜島 鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の月別総噴出量  
（2006 年 1 月～2013 年 12 月）

火山灰の 2013 年 12 月の総噴出量は約 30 万トンで、11 月（約 50 万トン）より減少しました。  
鹿児島県の降灰観測データをもとに鹿児島地方気象台で解析して作成。

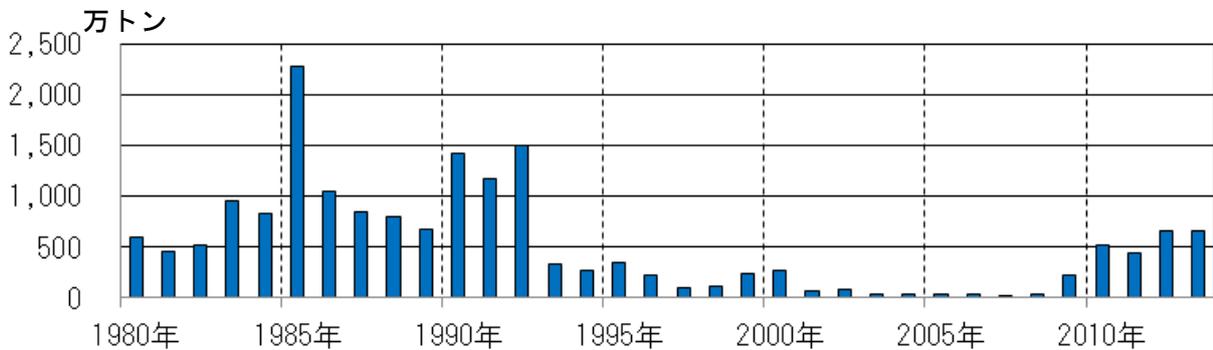


図 8 桜島 鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の年別総噴出量  
（1980 年～2013 年）

2013 年 1 月から 12 月までの総噴出量は約 650 万トンで昨年（2012 年：年合計約 660 万トン）と同程度でした。

鹿児島県の降灰観測データをもとに鹿児島地方気象台で解析して作成。

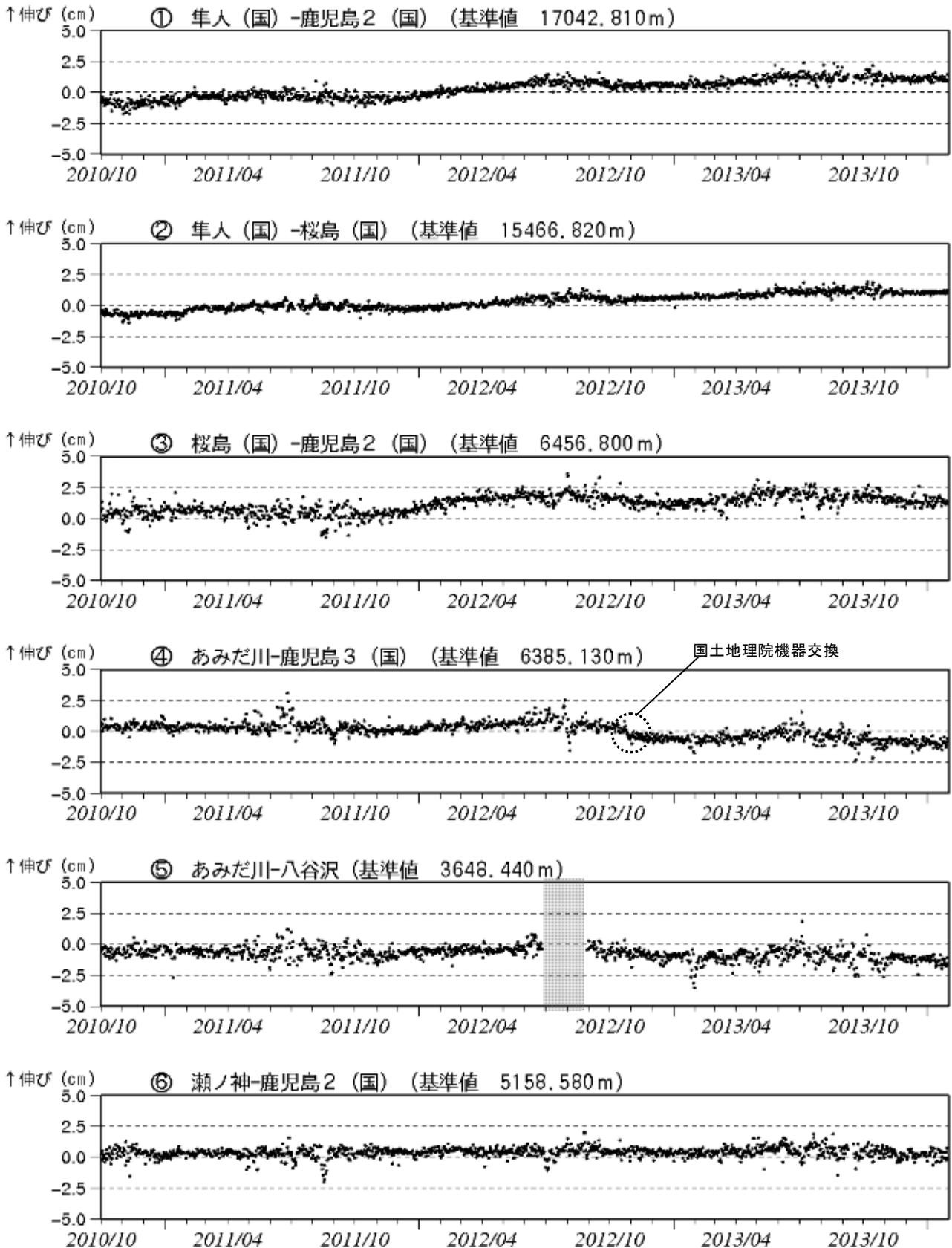


図 9-1 桜島 GPS 連続観測による長期の基線長変化 (2010 年 10 月～2014 年 1 月)

GPS 連続観測では、2013 年 2 月頃からわずかな伸びの傾向が見られましたが、7 月頃から停滞またはわずかな縮みの傾向が見られます。

桜島島内及び始良カルデラ周辺の気象庁・国土地理院の 9 観測点の基線による観測を行っています。  
この基線は図 10 の①～⑥に対応しています。

灰色の部分には機器障害のため欠測を示しています。

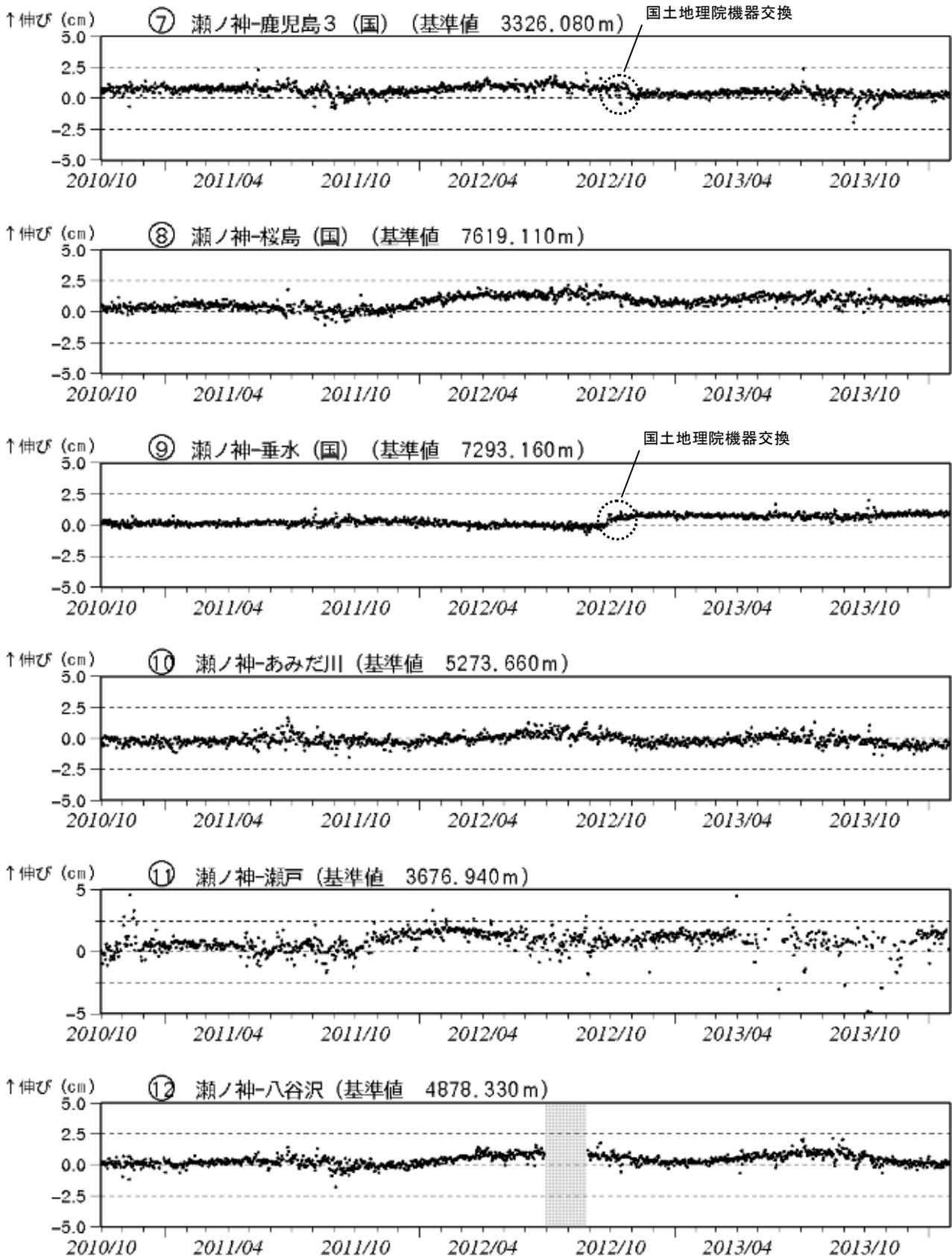


図 9-2 桜島 GPS 連続観測による長期の基線長変化（2010 年 10 月～2014 年 1 月）

桜島島内及び始良カルデラ周辺の気象庁・国土地理院の 9 観測点の基線による観測を行っています。  
この基線は図 10 の⑦～⑫に対応しています。  
灰色の部分は機器障害のため欠測を示しています。

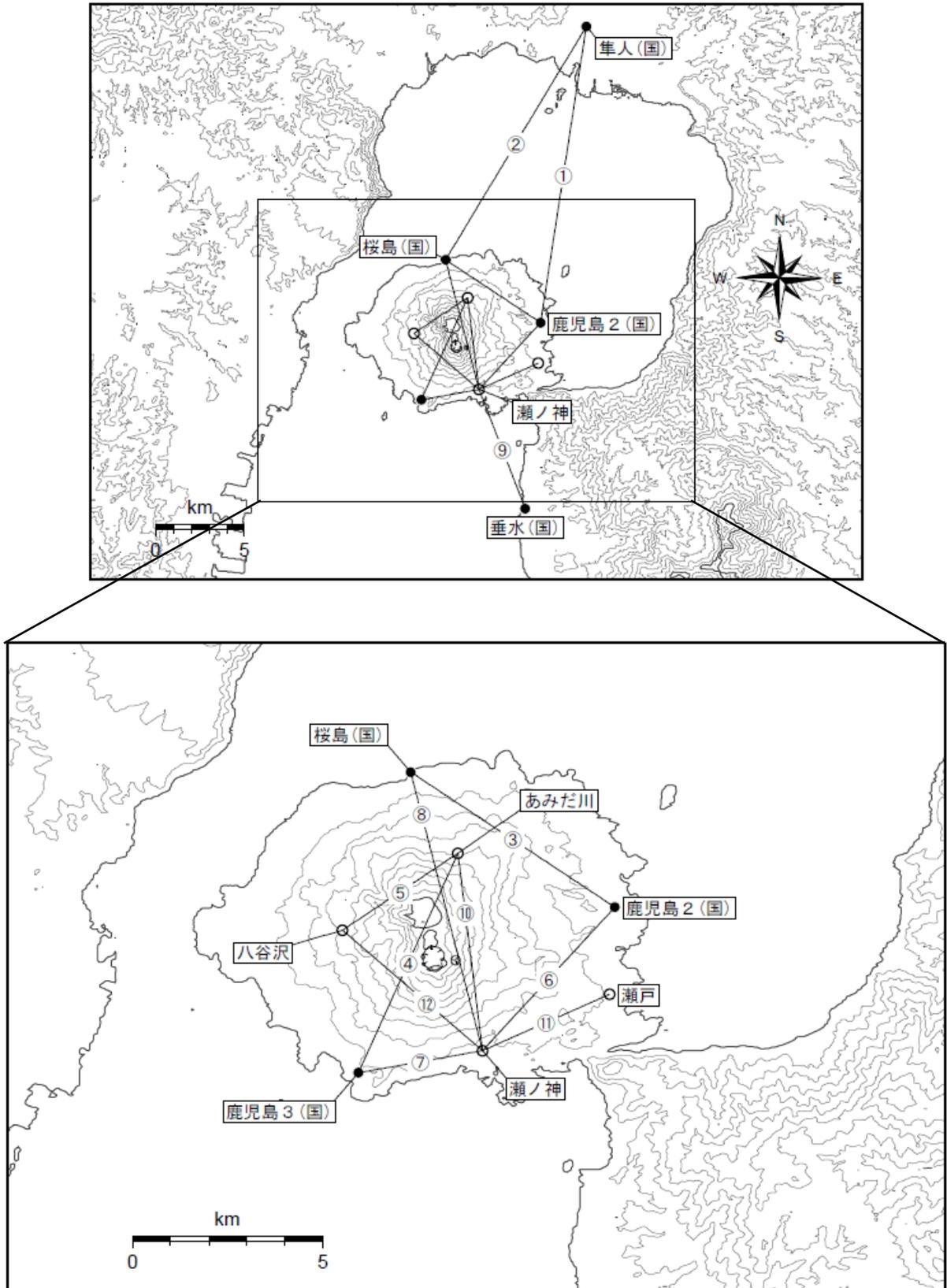


図 10 桜島 GPS 連続観測点と基線番号

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 （国）：国土地理院

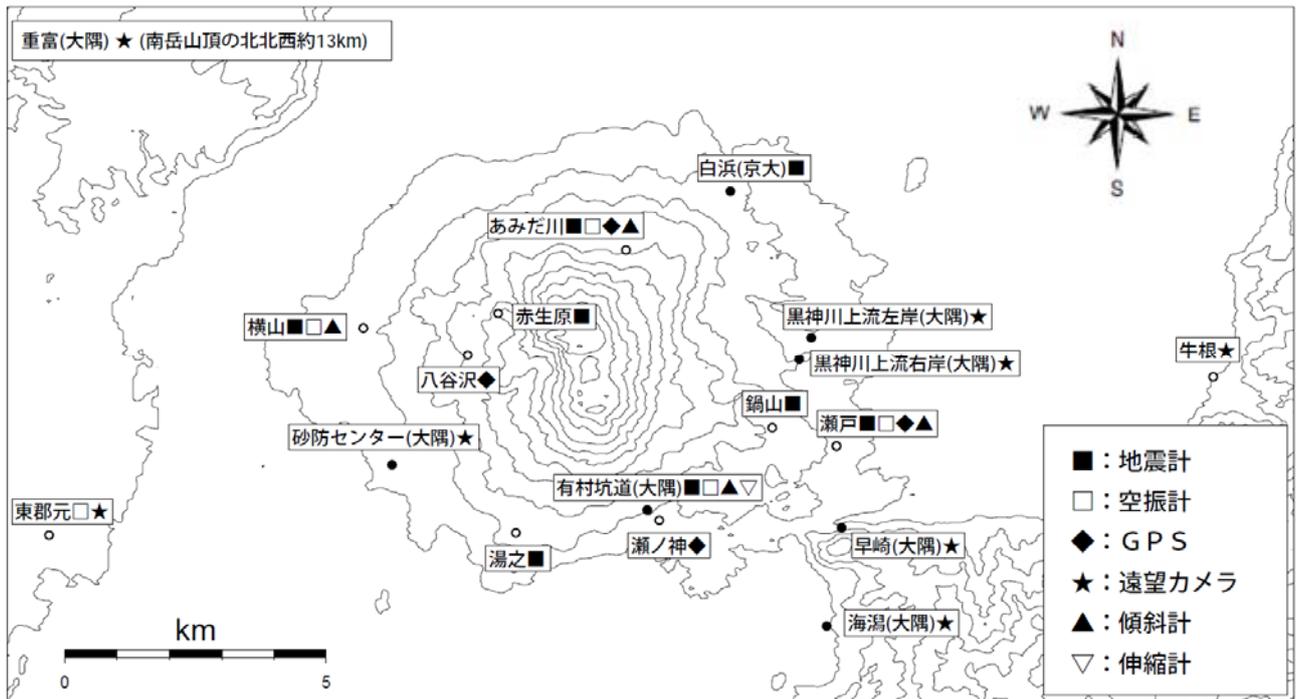


図 11 桜島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (大隅) : 大隅河川国道事務所設置、(京大) : 京都大学防災研究所設置

表 1 桜島 最近 1 年間の月別噴火回数 (2013 年 2 月～2014 年 1 月)

2013～2014年		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
南岳山頂	噴火回数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	火口	爆発的噴火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
昭和	噴火回数	132	74	17	70	18	128	144	154	127	69	40	16	989
	火口	爆発的噴火	119	61	14	58	17	83	118	110	87	50	22	14

表 2 桜島 最近 1 年間の月別地震・微動回数 (赤生原 : 2013 年 2 月～2014 年 1 月)

2013～2014年		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
地震回数		746	552	287	458	216	723	971	794	670	453	699	296	6865
微動回数		321	321	56	76	25	383	299	392	606	310	411	193	3393

表 3 桜島 最近 1 年間の鹿児島地方気象台での月別降灰量と降灰日数 (2013 年 2 月～2014 年 1 月)

2013～2014年		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
降灰量 (g/m <sup>2</sup> )		24	8	0	74	4	2	59	906	720	7	18	15	1837
降灰日数		6	5	1	13	6	1	13	20	22	3	3	7	100